

## 『日中言語対照研究論集』投稿規程

(2021年3月改訂)

1. 投稿は、日中対照言語学および現代日本語と現代中国語、特に文法・語彙および教育に関する研究論文、報告などとする。会員、非会員ともに投稿できるが、掲載に当たっては会員を優先とする。
2. 投稿は、未公開の完全原稿とする。また投稿本数は各執筆者につき1本もしくは、次の形で2本まで認める。(1) 単独執筆1本、共同執筆1本。(2) 共同執筆2本。
3. 投稿は、正本と副本を各1部提出する。副本は、正本から氏名・所属、「論文提出表」のほか、執筆者が特定できる箇所を除いたものとする。
4. 郵送にて提出する場合は、正本と副本の印刷原稿とワードファイル入りのCDを、白帝社編集部宛郵送する。封筒表面に、必ず『日中言語対照研究論集』投稿論文』と明示する。電子メール(ohgakubun@toyo.jp)にて提出する場合は、正本と副本のワードファイルとPDFファイルを添付して送付する。
5. 投稿締め切りは、毎年9月30日(当日消印有効)までとする。
6. 投稿の採否は、査読により編集委員会が決定する。採否の結果は締め切り日より3ヶ月後を目途に本人に知らせる。採否に関わらず原稿は返却しない。
7. 原稿料は支払わない。掲載した場合は、執筆者に掲載雑誌を2冊贈呈する。希望があれば紙版(実費)またはPDF版(無料)の抜刷りを作成することができる。なお、贈呈本の送付は、日本国内に限り無料とする。海外からの投稿者は、国際郵便に掛かる費用を自己負担する。
8. 投稿原稿の著作権は、本学会に投稿された時点をもって本学会に帰属する。著作権が本学会に帰属する投稿原稿を利用する場合、本学会の許諾を得るものとする。ただし、学会誌掲載後に執筆者が機関リポジトリ等に利用する場合は、本学会の許諾は必要としない。なお、本学会が学会誌に掲載しないことを決定した時点で、本学会は著作権を執筆者に返還する。
9. 原稿作成にあたっては、下記の執筆要領を参照されたい。これに反する原稿は原則として受理されないことになる。

## 『日中言語対照研究論集』執筆要領

(2021年3月改訂)

1. 原稿には、原則として日本語を使用するが、編集委員会の承認を得て中国語の使用を認めることもある。
2. 「日中言語対照研究論集テンプレート.docx」をダウンロードして使用し、以下の体裁で

執筆すること。

3. B5用紙に10.5ポイントの文字で、毎ページ40字×33行、15ページ以内とする。
4. 原稿1枚目には、1) 題目(英文題目も必要)、2) 執筆者氏名(英字氏名も必要)、3) 本文と同一言語のキーワード(5つ以内)、4) 本文と異なる言語の要旨(500字以内)をつける。原稿最終ページの次のページ(15ページには含まれない)の「論文提出表」に必要事項を記入する。
5. 使用ソフトはWindows上で動作するワープロかエディタのソフトを使用する(MSワードが望ましい)。添付CDの表面、あるいはファイルを添付する電子メールの本文に使用ソフト名とバージョンを明記する。
6. 母語以外の言語で執筆した箇所は、英文題目も含め、必ず母語話者の校閲を受けること。
7. 日本語は原則として「MS明朝」や「MSゴシック」を、中国語は「SimSun」「SimHei」や「簡体字GBコード」を使用し、特殊な文字や記号を避ける。日本語の旧字体や中国語の繁体字を使用しなければならない場合は、使用した箇所を明記する。また、中国語に日本語漢字を、日本語に中国語漢字を使用することを避ける。
8. 各章ごとに章番号と章題をつける。
9. 例文は、(1)(2)(3)…のような全文を通す番号をつけ、2字分下げて(改行後も同じ)そろえる。例文は原則として訳文をつけ、出典のあるものは出典を明記する。
10. 文献からの引用文は、すべて3字分下げ、冒頭は、日本語は4字分、中国語は5字分下げる。引用文は、原著者名、原著名、ページ数を明記する。
11. 注は、文中では1)のような数字で右肩につけ、注釈を一括して本文の最後にまとめる。
12. 本文の中国語の語句等は、双引号“ ”で示し、日本語は鍵括弧「 」で示す。日本語読点は「、」を使用する。
13. 例文出典資料は、下記の体裁とする。  
『出典資料名』(巻号) 著者名、出版社名、発行年月日
14. 参考文献は、下記の体裁とする。  
著者名、年月日、「論文名」、『著書または掲載雑誌名』(巻号) 出版社名、出版社所在地  
(日本語の論文名は「」、書籍名・誌名は『』で、中国語の論文名は〈〉、書籍名・雑誌名は《》でくくる。また、一著者による同一年の論著は、「呂叔湘1992a」、「呂叔湘1992b」のように区別する。
15. 図表、写真などを使用した場合は、原版の提出が求められることがある。図表、写真はカラーであってもよいが、印刷時には白黒になる点を考慮すること。なお、図や表内の文字は9ポイント以上とする。また、Excel等で作成したグラフは、図として貼り付ける。テキストボックスは最低限の使用にとどめる。
16. 本文または注の中で先行研究に言及するときは、「鈴木1993:20-22」のように、ページまで明示する。日本人以外は「呂叔湘1982:18-25」のように、姓名をともに明示する。